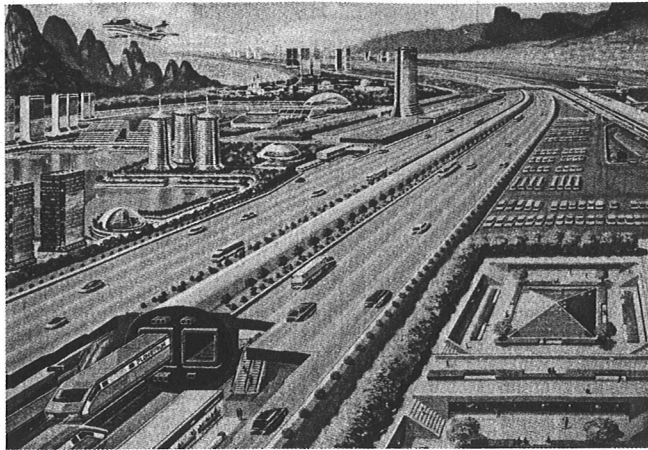


日韓トンネル新時代へ

ハイウェイが結ぶアジア共同体 世界平和実現に貢献



近い将来、日本から自動車に乗って、韓国・北朝鮮・中国を通じてヨーロッパまで行くことができる時代が来るかもしれない。その要となるのが日本の九州と韓国の釜山をつなぐ「日韓トンネル」構想の実現である。金大中・韓国大統領もこの日韓トンネルをつなぐ構想に深い関心を寄せていて、昨年の訪日の時に日本側に提案すると報道されたが、その後、それほどの進展もなく現在に至っている。だが、最近、韓国の金大統領がロシアのプーチン大統領と会談し、「日韓トンネル」とは違ったシベリア経由の鉄道「ユーラシア鉄道」実現への意欲を示し、ヨーロッパを結ぶ「日韓トンネル」構想が実現されていく。もし、これが実現すれば、日本は文化・経済などで益々大躍進を遂げることが可能になる。その意味でも、日本経済の再生を含めて国家事業である「日韓トンネル」構想実現に向けて新たな対応が望まれている。

日韓トンネル構想は一九八一年、韓国のソウルで開かれた年回科学者の統一に関する国際会議「TCS」で提唱された。提唱したのは、同会議の別設者である鮮明師で、世界平和の目的を達成するためには、その一つの手として、世界の資源の協定と民族対立の解決を必要とするため、人種対立を克服する必要がある。この目的を達成するために、国境を越えて自由に往来できる国際ハイウェイを建設しようという提唱を、日本からソウル・ヨーロッパに、ソウル・東松山・ポーランドと東洋を通過する国際ハイウェイ建設構想を打ち出した。

このシムクロードの現代のシムクロードは、代役もいっぺん国際ハイウェイネットワークに開かれた年回科学者の統一に関する国際会議「TCS」で提唱された。提唱したのは、同会議の別設者である鮮明師で、世界平和の目的を達成するためには、その一つの手として、世界の資源の協定と民族対立の解決を必要とするため、人種対立を克服する必要がある。この目的を達成するために、国境を越えて自由に往来できる国際ハイウェイを建設しようという提唱を、日本からソウル・ヨーロッパに、ソウル・東松山・ポーランドと東洋を通過する国際ハイウェイ建設構想を打ち出した。

ハイウェイの一部として、京丹波郡・高野を結ぶ「日韓トンネル」構想は、戦前に開かれた年回科学者の統一に関する国際会議「TCS」で提唱された。提唱したのは、同会議の別設者である鮮明師で、世界平和の目的を達成するためには、その一つの手として、世界の資源の協定と民族対立の解決を必要とするため、人種対立を克服する必要がある。この目的を達成するために、国境を越えて自由に往来できる国際ハイウェイを建設しようという提唱を、日本からソウル・ヨーロッパに、ソウル・東松山・ポーランドと東洋を通過する国際ハイウェイ建設構想を打ち出した。

日韓トンネルは、完成すれば、全長五百五十キロメートルに達する。これは、戦前に開かれた年回科学者の統一に関する国際会議「TCS」で提唱された。提唱したのは、同会議の別設者である鮮明師で、世界平和の目的を達成するためには、その一つの手として、世界の資源の協定と民族対立の解決を必要とするため、人種対立を克服する必要がある。この目的を達成するために、国境を越えて自由に往来できる国際ハイウェイを建設しようという提唱を、日本からソウル・ヨーロッパに、ソウル・東松山・ポーランドと東洋を通過する国際ハイウェイ建設構想を打ち出した。

日韓トンネルは、完成すれば、全長五百五十キロメートルに達する。これは、戦前に開かれた年回科学者の統一に関する国際会議「TCS」で提唱された。提唱したのは、同会議の別設者である鮮明師で、世界平和の目的を達成するためには、その一つの手として、世界の資源の協定と民族対立の解決を必要とするため、人種対立を克服する必要がある。この目的を達成するために、国境を越えて自由に往来できる国際ハイウェイを建設しようという提唱を、日本からソウル・ヨーロッパに、ソウル・東松山・ポーランドと東洋を通過する国際ハイウェイ建設構想を打ち出した。

日韓トンネルは、完成すれば、全長五百五十キロメートルに達する。これは、戦前に開かれた年回科学者の統一に関する国際会議「TCS」で提唱された。提唱したのは、同会議の別設者である鮮明師で、世界平和の目的を達成するためには、その一つの手として、世界の資源の協定と民族対立の解決を必要とするため、人種対立を克服する必要がある。この目的を達成するために、国境を越えて自由に往来できる国際ハイウェイを建設しようという提唱を、日本からソウル・ヨーロッパに、ソウル・東松山・ポーランドと東洋を通過する国際ハイウェイ建設構想を打ち出した。

日韓トンネルは、完成すれば、全長五百五十キロメートルに達する。これは、戦前に開かれた年回科学者の統一に関する国際会議「TCS」で提唱された。提唱したのは、同会議の別設者である鮮明師で、世界平和の目的を達成するためには、その一つの手として、世界の資源の協定と民族対立の解決を必要とするため、人種対立を克服する必要がある。この目的を達成するために、国境を越えて自由に往来できる国際ハイウェイを建設しようという提唱を、日本からソウル・ヨーロッパに、ソウル・東松山・ポーランドと東洋を通過する国際ハイウェイ建設構想を打ち出した。

ユーラシア鉄道実現か

東西を結ぶ鉄のシルクロード

韓・日首脳会談



プーチンロシア大統領 金大中・韓国大統領

韓・日首脳会談は、金大中・韓国大統領とプーチン・ロシア大統領の首脳会談が二月二十七日に行われ、この壮大なプロジェクト推進すること合意し、今後具体的な協議していくことが決められた。実現すれば、韓国とヨーロッパを結ぶ、大きな人的・物的な交流の道筋が開かれる。

韓・日首脳会談は、金大中・韓国大統領とプーチン・ロシア大統領の首脳会談が二月二十七日に行われ、この壮大なプロジェクト推進すること合意し、今後具体的な協議していくことが決められた。実現すれば、韓国とヨーロッパを結ぶ、大きな人的・物的な交流の道筋が開かれる。

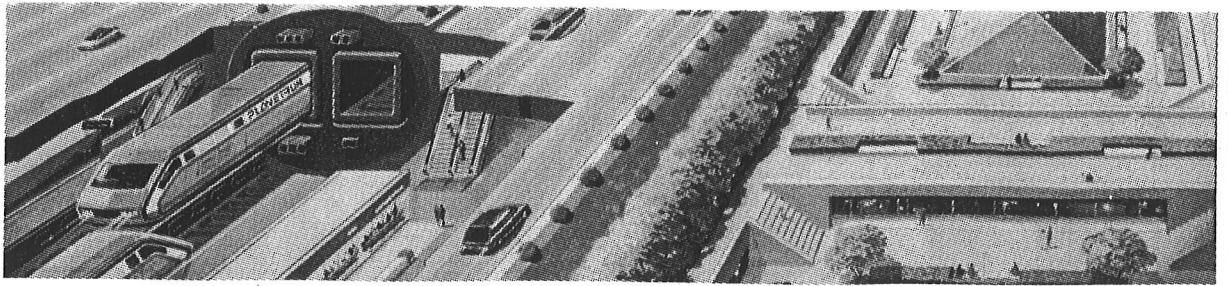
韓・日首脳会談は、金大中・韓国大統領とプーチン・ロシア大統領の首脳会談が二月二十七日に行われ、この壮大なプロジェクト推進すること合意し、今後具体的な協議していくことが決められた。実現すれば、韓国とヨーロッパを結ぶ、大きな人的・物的な交流の道筋が開かれる。

韓・日首脳会談は、金大中・韓国大統領とプーチン・ロシア大統領の首脳会談が二月二十七日に行われ、この壮大なプロジェクト推進すること合意し、今後具体的な協議していくことが決められた。実現すれば、韓国とヨーロッパを結ぶ、大きな人的・物的な交流の道筋が開かれる。

第130号

友情

発行者 アジア人協会
日韓人協会
発行所 友情社
〒150-0001
東京都渋谷区神宮前5-29-9
めぐみハイマンション 602
TEL 03-3409-1203
FAX 03-3409-1208
E-mail JZT04676@nifty.ne.jp
郵便振替口座00130-7-656495
定価一部 300円(本体286円)
年間購読 4000円(送料込)
© 友情社 2001



近い将来、日本から自動車に乗って、韓国・北朝鮮・中国を通ってヨーロッパまで行くことができる時代が来るかもしれない。その要となるのが日本の九州と韓国の釜山までをつなぐ「日韓トンネル」構想の実現である。金大中・韓国大統領もこの日韓トンネルをつなぐ構想に深い関心を寄せていて、昨年の訪日の時に日本側に提案すると報道もされていたが、その後、それほど進展もなく現在に至っている。だが、最近、韓国の金大統領とロシアのプーチン大統領が会談し、「日韓トンネル」とは違ったシベリア経由の鉄道「ユーラシア鉄道」実現への合意をし、ヨーロッパとアジアをつなぐ構想が発表されている。もし、これが実現すれば、日本は文化・経済などで益々大陸から孤立してしまうかもしれない。その意味でも、日本経済の再生を含めて国家事業である「日韓トンネル」構想実現に向けて新たな対応が望まれている。

日韓トンネル構想は、一九八一年、韓国のソウルで開かれた第十回「科学の統一に関する国際会議（ICUS）」で提唱された。提唱したのは、同会議の創設者である文鮮明師で、世界平和の目的を達成するためには、その一つの手段として、「世界の貧富の格差や民族対立、人種対立を克服するために、国境を越えて自由に往来できる国際ハイウェイを建設しよう」という提案をし、日本からアジア、ヨーロッパに至る、西洋と東洋を道路で結ぶ国際ハイウェイ建設構想を打ち出した。

このシルクロードの現

代版ともいえるべき国際ハイウェイ・ネットワーク計画の第一段階として位置づけられるのが、日本と韓国をトンネルでつなぐ「日韓トンネル」である。

現代のシルクロード

このような構想のもとで、八二年に日韓トンネル研究のプロジェクト総括委員会が設置され、その後、国際ハイウェイ建設事業団が設立された。具体的には、この年の十月には東松浦半島でボーリング調査を開始するという早さで、調査・研究は進んでいった。

そして、八三年に専門家、学者を中心として「日韓トンネル研究会」が設立され、日韓を結ぶルート選定、トンネルの施工法の検討、地表調査などが精力的に開始された。

同時に、日本と韓国だけでなく、日韓トンネルを通して結ばれるアジアハイウェイの基幹道路が、つらぬく中国も加えて、その構想実現のための学者・有識者を集めて波及効果、経済・文化的影響等について討議するシンポジウムを開いた。特に、一九八八年には、朴普熙博士が率いる代表団が訪中し、中国の指導者と会見し、東アジア

ハイウェイの一部として京丹国際高速公路を全面的な外資導入によって建設することの提案が基本的に中国側に受け入れられるようになった。

日韓トンネルを通してのアジアハイウェイ構想は、かなり実現性の高いものとして、周辺環境が整備されてきたが、しかし、肝心なものの日韓トンネル自体がボーリングや試掘調査という段階に止まり、以降、具体的な着手までは至っていない。それはこの日韓トンネルが、国家的プロジェクトになるために、民間のレベルでは資金などの問題でどうしても限界があるというところでもある。総工費は五兆円とも見積もられている国際的な巨大プロジェクトだ。

サッカーW杯も友好追い風

トンネルのルート案としては、唐津市鎮西町を起点として彦岐一対馬を経由して巨済島に至るルートで二案（A、B案、対馬から釜山に至るルートで一案（C案）がまともになっている。

このような日本と韓国

にとつても、巨大な事業となり、そこから派生する様々な産業の波及効果とともに、将来の国家の繁栄にもつながるプロジェクトだが、韓国側と日本ではやや温度差があつて、韓・ロが推し進めようとしているシベリア経由の「ユーラシア鉄道」構想に比べると、日本側が消極的といつてよい。

だが、日韓トンネルの構想自体は、戦前にも同じようなものが構想されていた。戦前において、アジアと日本をつなぐことで、大東亜共栄圏構想のようなのとして、旧鉄道省が一九三五年に研究会を組織して研究がなされていたのだ。

そのときは、佐賀県の呼子から彦岐・対馬を経由して韓半島に至るルートが構想されていた。

二〇〇二年には、日韓のワールドサッカーW杯共同開催という、新次元の日韓友好のイベントもあり、益々近い関係になることが予測される現在、改めてこの日韓トンネルの再検討がなされる必要があるといえる。

ユーラシア鉄道実現か

東西を結ぶ鉄のシルクロード

韓・ロ首脳会談

夢の日韓トンネルよりも、一足先に早く実現しそうなのが、韓国・北朝鮮・モンゴル・ロシアを結ぶ鉄道によるシルクロードだ。金大中韓国大統領とロシアのプーチン大統領の首脳会談が二月二十七日に行われ、この壮大なプロジェクト推進をすることで合意し、今後具体的に協議していくことが決められた。実現すれば、韓国とヨーロッパを結び、大きな人的・物的な交流の道筋が開かれる。

韓国の金大中大統領とロシアのプーチン大統領の会談によって、鉄道をつないでシベリア経由の	「ユーラシア鉄道」実現が一步前進した。これによって、韓口関係は、九〇年の歴史的な	国交回復から十一年を迎えた。この構想が実現可能なプロジェクトなのは、北朝鮮との関係で緊張緩和をむかえて、ソウルと	新義州を結ぶ京義線の復元が順調にいけば、今秋にも完成するという事も含まれているからだ。
---	--	--	---



プーチンロシア大統領



金大中・韓国大統領

韓・ロは両国の合意によって、今後の具体的な事業計画などに実務官レベルで協議して、連結事業をどのように勧めてい

くかを決めていく予定だ。だが、問題は資金問題や途中の通過国である北朝鮮、モンゴルの協力をどの程度得られるか、という点だ。雪解けムードとはいえ、まだ北朝鮮との関係では、予断を許さないものがあり、特に南北統一をどのようなかたちで実現するか、という政治的課題も残っている。

ただし、この鉄のユーラシア鉄道実現のあかつきには、ヨーロッパまで物流としては、海上輸送に比べて約十二日間程度に半減できるメリットがあり、そのことによって韓半島の政治的安定と産業の発展に大きく貢献することは間違いない。経済的にも韓国とロシアは、昨年においては、推定二十八億台にのぼる貿易関係を構築し、韓国企業としては、大企業約二十社が進出し、資源開発などに関心をもち、また、小中のベンチャー企業の進出も加速度を加えている。

このような背景の中、今後の韓・ロ関係の行方がどうなるか注目されるところだ。